

独立行政法人 地域医療機能推進機構

Japan Community Healthcare Organization



JCHO 北海道病院

病院案内



未来の地域医療を考えながら 職員の専門力とチーム力を結集し 多くの皆さまから信頼される病院を 目指しています



独立行政法人地域医療機能推進機構
北海道病院

院長 古家 乾

FURUYA Ken

- 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医・支部評議員
- 日本消化器病学会専門医・指導医・支部評議員
- 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- 日本肝臓学会肝臓専門医
- 日本静脈経腸栄養学会認定医

当院は、昭和28年の設立以来、北海道社会保険中央病院、北海道社会保険病院、さらに平成26年4月より独立行政法人地域医療機能推進機構（Japan Community Health care Organization ; JCHO）北海道病院として、大きく生まれ変わりました。

当院は周産期から成人・高齢者までの急性期医療を担う役割を果たし、地域医療に貢献することを目的としております。各診療科は専門性の高い医療を目指してきました。各センター・診療科に関しましては当パンフレットの紹介ページをご参照ください。

一方、日本の超高齢化社会を鑑み、健康管理センターでの健診による疾病の早期発見と予防および附属介護老人保健施設での在宅復帰を目指した介護と福祉の実践にも注力し、今後の課題である地域包括ケアシステムを地域において実践する要の役割も目指しております。

高齢化社会においては、「臓器を診る専門性の高い医療のみならず、さまざまな背景を持つ“病に陥った人”を全人的に診療し、疾病に陥る以前の状態になるべく近づくよう、回復できる道を探しだすこと」が必須になっています。そのためには、関係医療機関および介護・福祉施設などとのシームレスで密接な連携の構築が必要なことは言うまでもありません。

当院ではこれを目指して「総合支援センター（General Support Center; 通称 GSC）」を組織し、地域連携・入退院支援・各種相談業務を一体化して院内外とのより良い情報共有の在り方を模索しております。

当院職員の目標は、“Be essential for all !”です。一人一人の職員が患者さんやそのご家族はもとより、病院職員同士やこの地域の人々にとって必要不可欠な存在になるよう、日々の業務に励んでほしいという意味を込めています。

厚生労働大臣指定の臨床研修病院、地域医療支援病院、北海道がん診療連携指定病院、地域周産期母子医療センターなどの機能をさらに充実させ、地域から信頼される病院施設群を目指すとともに、医療従事者の育成環境にも注力する所存でございます。

独立行政法人としては経営基盤も重要な課題であり、この豊平の地で、地域の健康・医療・介護を推進できる、健全で強固な施設運営を念頭に歩み続けたいと思います。

病院概要

名称 独立行政法人地域医療機能推進機構 北海道病院
病院長 古家 乾
所在地 〒062-8618 札幌市豊平区中の島1条8丁目3番18号
電話 011-831-5151
F A X 011-821-3851
開設日 平成26年4月1日
(旧・北海道社会保険病院創立：昭和28年2月27日)
病床数 322床 (一般病床 312床 / 結核病床 10床)
職員数 712人 (令和6年4月1日現在)
診療科目 消化器センター (消化器内科、消化器外科)
呼吸器センター (呼吸器内科、呼吸器外科)
腎・膠原病センター (腎臓内科、膠原病内科)
周産期医療センター (新生児科・産科) 総合診療救急科
循環器内科 心臓血管外科 内科 糖尿病・内分泌内科
小児科 外科 整形外科 泌尿器科 産婦人科 眼科
耳鼻咽喉科 皮膚科 麻酔科 放射線診断科 病理診断科

JCHO (ジェイコー) とは ～独立行政法人地域医療機能推進機構



JCHO (独立行政法人地域医療機能推進機構) は、従来の社会保険病院、厚生年金病院、船員保険病院の3つのグループから構成される全国57病院が一つの新組織に統一された公設公営の病院群です。道内には当院のほか、札幌北辰病院、登別病院の3病院があります。

旧・社会保険病院

JCHO

旧・厚生年金病院

旧・船員保険病院



副院長



数井 啓蔵
KAZUI Keizo



長 和俊
CHO Kazutoshi

JCHO 北海道病院の役割

● 地域医療支援病院

身近な地域で完結した医療が提供できるようにするために、診療所や病院などの医療機関と適切な役割分担と連携を図っていくことにより、地域医療の充実を図る病院です。

● 地域周産期母子医療センター

周産期（出産の前後の時期）を対象とした医療施設で、産科と新生児科があり、ハイリスクの出産に対応できる施設です。

● 北海道がん診療連携指定病院

標準的ながん医療サービスを平等に受けることができるよう、国の指針に基づいて、患者さん・ご家族を支援します。

● 臨床研修病院

医学部を卒業し、医師免許を取得した医師（研修医）が2年間、基本的な手技、知識（初期研修）を身に付けるために籍をおく病院です。

理 念

地域の人々を中心にした**質の高い医療・介護**を提供し
地域から**信頼される**病院になります。

基本方針

1. 一人一人の権利を尊重し、人間愛を基調とした医療・介護を行います。
2. 安全を第一に説明と同意に基づく医療・介護を行います。
3. 地域との連携を推進し求められる医療・介護を行います。
4. 地域の健康増進をめざし、保健予防活動を推進します。
5. 地域医療機能の推進をもって医療・医学の発展に貢献します。

患者の権利と責任

1.知る権利

患者さんは、自己の医療に関して、治療内容などについて十分に納得いく説明を求めることができます。

2.自己決定の権利

患者さんは、納得できるまで説明を受けた上で、自分の意思で、検査、治療などの医療行為を選択、あるいは他の医師の意見（セカンドオピニオン）を求めることができます。

3.プライバシーが守られる権利

患者さんは、自己の医療に関する記録、個人情報及びプライバシーについて保護される権利があります。

4.協力する責任

患者さんは、病院職員と協同して医療に参加する責任があります。



Be essential for all !

—— 全ての方にとって必要不可欠な存在に

質の高い医療を地域へ

JCHO 北海道病院は地域の中核病院として、地域医療支援病院、北海道がん診療連携指定病院、地域周産期母子医療センターなどの指定・認定を受け、地域の人々に質の高い医療を提供し、地域から信頼される病院を目指してきました。さまざまな役割を果たす中で、医療の高度化、個別化への対応に尽力し、地域医療の推進に努めています。令和6年3月から手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、患者さんの体への負担が少ない高精度な手術が可能になりました。



1つの疾病を複数の診療科で診るセンター機能

病院は多職種が集まる医療者のプロフェッショナル集団です。医療を通じて地域の健康と幸せに寄与するためには、患者中心の医療を高いレベルの専門性に基づいてチームで取り組む必要があります。各診療科と各職種が連携し、喜びと誇りを持って医療に取り組んでいます。

消化器センター

消化器内科／消化器外科

消化器科センターは平成19年4月1日に開設し、消化器科疾患に関して診断から内視鏡的治療、インターベンション、外科治療、がん化学療法、緩和医療まで幅広く診療しています。スタッフは、消化器内科5人、消化器外科5人で、多くの専門医・指導医の資格を持ち、経験豊かな医師が地域医療を支えています。従来からの内科と外科の垣根を取り払い、毎週合同カンファレンスを行い、消化器疾患の患者さんに対して迅速かつ的確に最善の治療が行えるように取り組んでいます。

患者さんのニーズに応え、低侵襲的な内視鏡治療やIVR、鏡視下手術（胃がん、大腸がん、胆石症、急性虫垂炎、鼠径ヘルニアなど）も積極的取り入れています。また、腫瘍内科と連携してがん化学療法、緩和医療、在宅や施設での栄養管理のための胃瘻造設、中心静脈ポート造設なども行っています。



呼吸器センター

呼吸器内科／呼吸器外科

呼吸器センターは、呼吸器内科と呼吸器外科から成り、密接に連携して多岐にわたる呼吸器疾患に対応しています。原発性肺がん、急性肺炎、間質性肺炎、誤嚥性肺炎などが入院契機となることが多い疾患です。肺結核、間質性肺炎、過敏性肺炎、気胸、膿胸、種々の原因による重症急性呼吸不全から長期の在宅管理が要求される慢性呼吸不全までほとんど全ての疾患に関して、自院で対応できることが最大の強みであり、当呼吸器センターの特徴です。

呼吸器センター常勤医は全員関連学会の専門医・認定医・指導医の資格を持ち、積極的に学会活動・研究会活動を行っています。



腎・膠原病センター

腎臓内科／膠原病内科

腎・膠原病センターでは、腎臓内科医とリウマチ医がそれぞれの専門性は保ちつつ協力して腎疾患と膠原病の診療にあたっています。

腎臓内科では、蛋白尿や血尿、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、腎不全などの患者さんの診療を行っています。透析が必要な患者さんに対しては血液透析や腹膜透析を導入し管理を行っています。膠原病内科では、最も多い関節リウマチのほかに全身性エリテマトーデスや各種血管炎症候群など、膠原病全般の早期診断と最新かつ最良の治療を行うことを目標に診療を行っています。



周産期医療センター

新生児科／産科

当院は地域周産期母子医療センターとして、令和5年度からKKR札幌医療センターとの産婦人科診療の機能的再編によって、施設・設備の拡充による周産期医療センター機能の充実・強化を実現し、名称を「とよひら周産期メディカルセンター」に変更しました。

令和6年度からはNICUが1床増床となり9床で稼働、GCU6床を新設しています。またMFICUの3床も稼働し、札幌市産婦人科準三次病院として緊急性・専門性の高い疾病や幅広い疾患に対応できる体制を強化しました。

地域のみなさまの身近な病院として妊娠、出産、子育て期を支援するため、周産期機能に特化した専門的な医療を提供しています。



小さな命を守り、幸せをつなぐ周産期医療

妊娠・出産・育児をシームレスに支援 **とよひら周産期メディカルセンター**



助産師外来



授乳室



LDR室



NICU（新生児特定集中治療室）9床



GCU（新生児治療回復室）6床



プレイルーム

「とよひら周産期メディカルセンター」では、近隣や札幌南部圏からリスクの高い母体や新生児を受け入れ、高度な医療を提供しています。

産科では専門性に特化した外来運営を行い、助産師外来での「ローリスク妊婦健康診査」の実施や当院で出産した以外の方でも産後ケアを受けられる「母乳・育児支援外来」を開設しています。母子を対象とした健康教室として「母親学級」「マタニティーヨガ」「ベビーマッサージ」を定期的を開催し、資格を持つスタッフが講師を務めています。

令和5年度からは「和痛分娩」を開始しました。当院麻酔科医の協力の下で、安全性の高い分娩を提供しています。

- アドバンス助産師 6名
- 国際認定ラクテーション・コンサルタント (IBCLC) 認定者 2名
- 母体救命J-MELS課程修了者 2名
- 母体救命ALSO課程修了者 2名
- 無痛分娩JALAカテゴリ-D講習修了者 6名
- マタニティー・ヨーギンストラクター 6名
- ベビーマッサージインストラクター 4名

各診療科と連携する放射線診療

医療技術の進歩と安全性を追及



血管造影装置 (Angio / IVR装置)



操作室



CT装置 (320列)



MRI装置 (1.5 T)



シンチグラフィ装置 (SPECT)

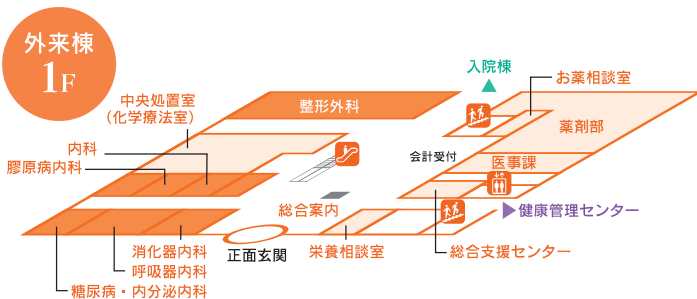
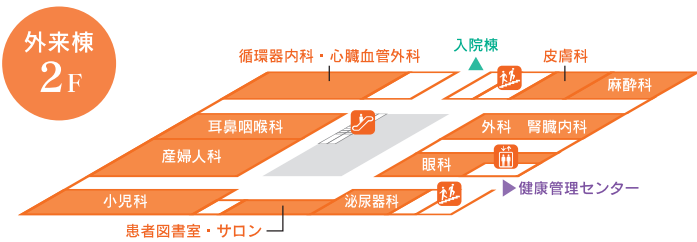


今日の検査や治療において、放射線は欠かせない存在です。CT検査やMRI検査など放射線検査装置の進化は目覚ましく、疾病の早期発見に大きく貢献しています。

JCHO北海道病院でも、日本医学放射線学会放射線診断専門医のもとで診療放射線技師が中心となり、CT・MRI・核医学検査などの画像診断検査技術の向上に日頃より励み、精度の高い検査を実施しています。救急医療や血管内治療、内視鏡の治療にも参画し、緊急検査や治療にも対応しています。院内の各診療科や地域医療機関と連携しながら、さまざまな検査データを駆使した治療支援画像の提供にも取り組んでいます。

専門知識を生かした放射線被ばくの安全管理に加え、医療事故の防止に努めています。

周産期から 成人・高齢者までに対応する 診療科



消化器内科

消化管疾患に対しては内視鏡検査（カプセル内視鏡、ダブルバルーン小腸内視鏡、CT仮想内視鏡を含む）や内視鏡治療（EMR、ESD）を、胆膵疾患に対してはERCP関連手技および経皮的IVR治療を実施しています。肝疾患ではIFNフリー療法などの抗ウイルス治療、肝がんに対する治療（PRFA、TACEなど）、門脈圧亢進症に対し内視鏡・IVR治療を実施しています。悪性腫瘍に対しては、外科や北海道大学病院から来ていただいている腫瘍内科医と協力して化学療法を含めた治療を行っています。



消化器内科診療部長 定岡 邦昌
SADAOKA Kuniaki

産科

産婦人科

産婦人科は5人の常勤医師と2人の非常勤医師で診療を行っています。外来予約優先の診療で、産科は主に妊婦健診を行っておりますが、セミオープンシステムを利用して提携している地域の産婦人科病院での妊婦健診も可能です。婦人科は一般婦人科診療として女性ヘルスケアに対応しています。

当科の特色としては、地域周産期母子医療センターとして産科の医師が日当直体制で院内に常駐しており、ハイリスク妊婦の母体搬送の受け入れや、切迫早産、妊娠高血圧症候群、多胎妊娠、合併症妊娠などのハイリスク妊娠の管理や分娩を行っています。ハイリスク妊娠だけではなく、ローリスクの出産を行う地域の病院としての役割も担っています。令和5年度からは和痛分娩も開始しました。

地域の産婦人科として、思春期にはHPVワクチンの定期接種や月経痛の相談を、性成熟期には周産期母子医療センターでの安心のお産や子宮がん検診を、更年期や老年期にはヘルスケアのための相談をと、女性のライフステージに応じて診療に努めています。



産婦人科診療部長 小田 泰也
ODA Yasunari

小児科

新生児科

小児科は6人の常勤医師、3人の非常勤医師が診療に携わっています。外来は予約不要の一般外来、予約制の専門外来（神経、内分泌、循環器、乳児健診、喘息・アレルギー）です。ワクチン接種は一般外来でいつでも可能ですが、水曜午後は一般外来を休診して、ワクチン接種に対応しています。病棟入院ベッド数は33床で、慢性疾患にも対応可能です。

当院は地域周産期母子医療センターに指定され、NICU（新生児特定集中治療室）9床、GCU（新生児治療回復室）6床が認定を受けており、早産児や病的新生児の治療施設となっています。また、通常の健康な赤ちゃんたちへの支援にも力を入れ、退院後の健診や予防接種など、当院のみならず地域の他医療機関とのスムーズな連携に努めています。



周産期医療センター長 長 和俊
CHO Kazutoshi



消化器外科

消化器センターの外科として消化器内科と共同し、消化管や肝胆膵などの消化器がん全般や虫垂炎、胆石症、鼠径ヘルニアなどの良性疾患の外科治療を担当しています。低侵襲な腹腔鏡手術（胃切除、胃全摘、大腸切除、胆嚢摘出、虫垂切除など）を積極的に行っています。抗がん剤治療も術前、術後化学療法を腫瘍内科と協力しながら行っています。胃瘻、腸瘻、中心静脈ポートなどの造設を中心に栄養管理を積極的に行っています。

2023年度からはロボット支援手術を開始しています。



消化器センター長 数井 啓蔵
KAZUI Keizo

呼吸器外科

呼吸器センターの外科として呼吸器内科と協力し、原発性肺がんや転移性肺腫瘍、胸腺腫などの悪性疾患や気胸、良性肺腫瘍、膿胸などに対して外科的治療を行っています。基本的に胸腔鏡手術を第一選択としており、ロボット支援手術を導入しています。



呼吸器外科部長 正村 裕紀
SHOMURA Hiroki

呼吸器内科

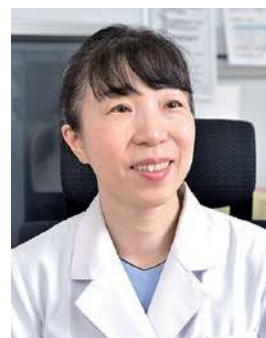
呼吸器センターの内科として、気管支炎・肺炎、気管支喘息、慢性気管支炎、慢性閉塞性肺疾患、抗酸菌感染症、睡眠時無呼吸症候群、呼吸不全などの呼吸器疾患全般、肺がん、胸膜中皮腫、その他悪性腫瘍などの診断・治療を行っています。また、長期の在宅管理が要求される慢性呼吸不全にも対応しています。

呼吸器疾患は、感染症や腫瘍、アレルギー、免疫学的異常などの基礎疾患に生理学的な変化を伴って個々の患者の病態となっています。複雑な病状を適切に診療するには、担当医師が最新の知識を持ち、かつそれを論理的に用いて対応することが必要です。

また、知識や技術のみに重点を置くのではなく、多職種のチーム体制で、患者の心に寄り添った優しい医療を目指しています。



呼吸器センター長／腫瘍センター長 原田 敏之
HARADA Toshiyuki



統括診療部長 長井 桂
NAGAI Katsura

腫瘍センター

腫瘍センターでは、がんの診断、治療に加え、多職種による緩和ケアチームを形成し、緩和ケアにも注力しています。最新・最善の治療を提供すべく、多くの臨床試験、治験にも参加しています。お役に立てます際には、遠慮なくご相談、ご紹介のほど、よろしくお願いたします。



腎臓内科

腎臓内科では、検尿異常（蛋白尿、血尿）、慢性腎臓病、電解質異常、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、急性腎不全、慢性腎臓病などの患者さんの診療を行っています。検尿異常や腎機能障害を指摘された方で、精密検査の必要がある場合には腎生検を行い、その結果を基に適切な治療を行っています。透析療法が必要となる場合は、患者さんの状況に応じて血液透析や腹膜透析を開始し治療を行っています。また、血漿交換療法などの各種血液浄化療法も行っています。腎臓病の治療は食事療法・薬物療法が重要になることから、看護師、薬剤師、栄養士などのチーム医療で患者さんの指導を行っています。



腎臓内科医師 山本 準也
YAMAMOTO Junya

膠原病内科

膠原病内科では、最も多い関節リウマチのほかに全身性エリテマトーテス、シェーグレン症候群、全身性強皮症、筋炎、混合性結合組織病、成人発症ステイル病、ベーチェット病、脊椎関節炎、抗リン脂質抗体症候群、各種血管炎症候群など膠原病全般の診断と治療を行っています。原因不明の発熱の鑑別を行うことも多くあります。

膠原病では多彩な症状や多臓器の障害が見られることから、総合病院であることを生かし、他科の先生とも協力して膠原病の早期診断と最新かつ最良の治療を行うことを目標に診療に当たっています。関節痛、皮疹、発熱が持続したり、複数の臓器障害が見られる場合、リウマチ因子や抗核抗体などの検査値異常を指摘された場合などはお気軽にご相談ください。



膠原病内科医長 志田 玄貴
SHIDA Haruki

糖尿病・内分泌内科

糖尿病は、食事療法、運動療法を基本として薬物治療を行います。特にインスリン自己注射導入、血糖自己測定導入、持続血糖測定に積極的に取り組んでいます。医療設備として持続皮下注器、持続血糖測定器（iPro2、Free style リブレPro）、血糖測定POCT機器などがあり、最新のデータマネジメントに基づいた治療が可能です。糖尿病教育入院では、医師のほか、多職種が糖尿病教室に関わり、チーム医療を実践した患者中心のアプローチを心掛けています。

内分泌疾患は希少疾患で非常に専門性の高い疾患です。当院では専門医または専門医の指導を受けた専攻医が診療を担当し、正確な診断と治療に努めています。各種ホルモンおよび負荷検査を行っており、甲状腺ホルモン、甲状腺関連自己抗体、副甲状腺ホルモンは迅速検査が可能で、当日中に検査結果が分かります。また、疾患頻度の多い甲状腺腫瘍は、エコー下甲状腺穿刺吸引細胞診の適応を考慮して実施しています。

内科（総合診療科）

一般内科、呼吸器内科、血液膠原病科、総合診療科などさまざまな科を経て平成28年に内科を立ち上げました。

内科では、慢性疾患を持った高齢老人を診る機会が多く、当院のリハビリ科と連携して、少しでもADLを改善する方法を探っています。現在、1人体制ということもあり大がかりな検査・治療はできず、必要に応じて専門医や他院に紹介を行っています。



総合診療科診療部長 大江 真司
OE Masashi



🦴 整形外科

4人の専門医が、最新の診断機器と治療機器を駆使して診察、治療を行っています。気軽に受診してください。

【背骨の病気（脊椎疾患）】

腰痛、首の痛み、肩こり、手・足の麻痺、しびれなど、背骨の異常から生じる症状の診察と治療。椎間板ヘルニア、脊管狭窄症、骨粗鬆症に伴う障害など、幅広い脊椎疾患の手術を含めた治療を行っています。

【膝関節、股関節、足の病気（下肢疾患）】

加齢により生じる変形性関節症。外傷による骨折。半月板損傷、靭帯損傷、その他のスポーツ疾患などの手術治療、保存治療（リハビリテーションを含む）を行っています。

【肩、腕、手の疾患（上肢疾患）】

上肢のけがや、肩の腱板損傷、慢性的な痛みなど、北海道大学病院整形外科の上肢専門医と共同して治療に当たっています。



整形外科診療部長 庄野 泰弘
SHONO Yasuhiro

患者さんの症状、生活様式に合わせて保存治療（投薬、注射、リハビリなど）、手術治療を行っています。加齢による変形性関節症に対しては人工関節置換術（膝関節、股関節）、骨切り術、関節鏡を用いたクリーニング手術などを行っています。

靭帯損傷、半月板損傷などのスポーツ障害に対しては、関節鏡視下での靭帯再建術、半月板縫合術、半月板部分切除術などを行っています。骨折などの外傷に対しても、必要に応じた手術を幅広く行っています。



整形外科診療部長 酒井 俊彦
SAKAI Toshihiko

🚽 泌尿器科

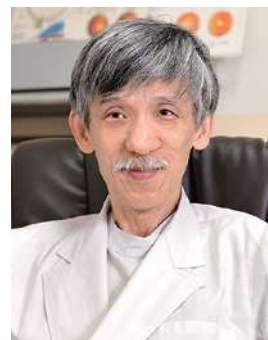
泌尿器科医師3人で年間500件程度の手術を行っています。前立腺がんや腎がん、腎盂尿管がん、膀胱がんに対しては、ロボット支援腹腔鏡手術を行い、前立腺がんが疑われる場合は、高解像度のマイクロ超音波機器を用いたMRI超音波融合前立腺生検で検出精度を向上させています。早期の腎盂尿管がんの症例に対しては、ツリウムレーザーを用いた経尿道的腫瘍蒸散術による腎温療法を行っています。膀胱がんの経尿道的手術では、がんを可視化する光線力学診断を併用した経尿道的手術（PDD-TURBT）を実施し、がん組織的的確な摘出が可能になりました。前立腺肥大症に対してはツリウムレーザーを用いた前立腺蒸散術（ThuVAP）や前立腺水蒸気治療（WAVE）を行っています。尿路結石症の治療では通常の経尿道的手術（TUL）以外に、経皮的手術を同時に行うECIRSを実施し、安全性と効率性を重視した破砕が可能です。札幌医科大学泌尿器科とも連携をとって診療を行っています。



泌尿器科医長 高柳 明夫
TAKAYANAGI Akio

👁️ 眼科

眼科全般について診療をしています。白内障、緑内障、網膜硝子体疾患をはじめ近視遠視などの屈折異常、角膜疾患などの診療を行います。必要に応じて視野検査、蛍光眼底造影検査、網膜電位図などの検査や網膜光凝固治療、ヤグレーザーによる後発白内障治療などを外来で行っています。また、黄斑疾患に対する抗血管内皮成長因子薬による硝子体注射の治療も行います。糖尿病網膜症では糖尿病内科と連携し、透析を受けている患者さんの手術は腎臓内科と連携しています。



眼科診療部長 藤尾 直樹
FUJIO Naoki

耳鼻咽喉科

常勤の耳鼻咽喉科専門医2人が診療に当たっています。外来診療では小児中耳炎を扱うことも多いのですが、まずは患者さんやお母さんに怖い思いを不必要にさせないよう努めています。平衡機能検査（めまい検査）、聴性脳幹反応（ABR）などを火曜午後、難聴や補聴器・耳鳴りに関する相談を月曜・水曜午後に行っています（予約のみ）。また、誤嚥性肺炎を繰り返す方に対する侵襲の少ない誤嚥防止術も積極的に行っています。

手術に関しては、小児では鼓膜チューブ留置術、扁桃摘出術、アデノイド切除術、成人に対しては副鼻腔炎等に対する鼻内内視鏡手術、神経モニタリング装置を併用した安全性の高い甲状腺・耳下腺腫瘍摘出術、喉頭腫瘍摘出術、気管切開術、深頸部膿瘍切開術なども積極的に行っています。

さらに、当科の特徴の一つとして、高齢化と深い関連のある嚥下障害の評価とリハビリに院内多職種協同で取り組んでいることが挙げられます。嚥下内視鏡検査の施行件数は道内有数です。

耳鼻咽喉科のことで気になることがありましたら、お気軽にご相談ください。



耳鼻咽喉科医長 太田 亮
OTA Ryo

循環器内科

令和5年から循環器専門医3人が常勤となりました。心血管カテーテル治療認定医・不整脈専門医・心臓リハビリテーション認定医、また心臓超音波を専門とする医師がそろい、さまざま専門分野に精通していることから、幅広い循環器・血管疾患への対応が可能です。外来では、経胸壁心エコー、冠動脈CT、運動負荷試験、ホルター心電図、核医学検査など必要な検査が全て可能で、外来心臓リハビリテーションも対応しています。心不全や虚血性心疾患、不整脈に対する入院検査や治療にも対応し、低侵襲な経皮的冠動脈形成術、また、下肢閉塞性動脈硬化症に対する経皮的血管形成術も多数施行しています。令和5年からは新たに不整脈に対するカテーテルアブレーションを開始するなど、より高い専門性を持って、今後も地域の循環器診療に取り組みます。



循環器内科部長 高橋 将成
TAKAHASHI Masashige

麻酔科（ペインクリニック）

当院では学会認定の麻酔専門医が、産科緊急や重症呼吸・循環合併症例なども含め、幅広い患者層や手術内容に対する麻酔・全身管理を行い、手術中だけでなく術前・術後を一貫して患者個別に対応します。私たちは特に術後回復に深く関わる鎮痛を重視し、外科系医療の土台を支えています。

常勤麻酔科医3人体制で手術麻酔を年間1200～1300件程度担当する以外に、ペインクリニック外来を週に3日開設し、外来での痛み治療にも力を注いでいます。

手術麻酔の件数はさほど多くはないですが、周産期医療センターがあることから、帝王切開術（時折全身麻酔や重症例もあります）が多いのが特徴です。ペインクリニックは全員が専門医を取得しており、主に外来で帯状疱疹関連・脊椎疾患・筋筋膜性疼痛・術後遷延痛などを診察しています。必要に応じて、重症例は入院治療を、透視下ブロックが必要な場合は手術室で行っています。ペインクリニック系が充実していますので、術後の疼痛管理で難渋している症例はオピオイド製剤・鎮痛補助薬（抗うつ剤・抗痙攣薬）などを、場合によっては神経ブロックなども組み合わせて管理することがあります。

なかなか改善しない痛み、診断がつかない痛みにも、単なる対症療法ではなく、痛みの成り立ちを推測し適切な時機に適切な手段を用いることで、難治性疼痛への移行を防ぎ、できる限りのQOL（生活の質）改善を目指します。



麻酔科診療部長 実藤 洋一
SANEFUJI Yoichi



麻酔科部長 笠井 裕子
KASAI Hiroko

放射線診断科

現在の医療は画像診断なくして成り立たず、通常は主治医が画像診断医の診断報告書を読み、それを解釈した上で患者さんに説明をしており、しっかりとした画像診断が医療の質を支えています。具体的には①CTやMRIといった高度診断機器において適応を含めて撮像範囲・造影の有無・撮像法を最終的に決定し、撮影を担当する放射線技師に指示を出すこと。②撮像した画像の読影（分析・診断）および病変があれば病期分類やその後の方針を示唆すること。担当医が想定していない、より重要な疾患を見つけることも日常茶飯事です。③IVR：血管造影やCT、超音波、透視補助下に各種血管造影や治療を行うこと。具体的には産後出血、喀血、腎・泌尿器系などの出血に対する塞栓術、画像ガイド下に比較的困難な生検・ドレナージ、副腎静脈サンプリングなどを実施しています。④診断学のupdate：画像診断の進歩は著しく学会などで得た最新の知見を明日からの診療に役立てるため知識のupdateも欠かせません。

近年さまざまな疾患における画像診断の重要性はますます増しており、画像診断医が直接あなたに会う機会は少ないですが、レポートの向こう側にいる患者さんのために果たす役割は非常に大きいです。



放射線診断科部長 杉浦 充
SUGIURA Mitsuru

病理診断科

当院病理診断科の主な業務は組織・細胞組織、術中迅速診断、病理解剖です。

令和5年の実績は、組織診2,401件（うち術中迅速診断は79件）、細胞診5097件、病理解剖4例で、各診療科からの依頼を受け細胞検査士・臨床検査技師と連携し、各種検体の診断をしています。

病理診断科もあくまで院内にあるひとつの診療科です。病理医は内科・外科などの各診療科とは異なり、患者さんと対面することはほぼありません。院内の一角で、患者さんから採取された組織・細胞を肉眼・顕微鏡下で観察し、診断しています。病理学的な診断名や診断内容そのものが患者さんの病気の最終診断になることも多く、診療過程において重要な役割を担っています。患者さんの症状・経過・各種検査・画像所見の共有、各種症例検討会への参加など、各診療科の医師・コメディカルとの多岐にわたる連携を重要視しながら、病理診断がより良い診療の一助になれるよう日々の業務取り組んでいます。



病理診断科医長 菊地 謙成
Kikuchi Noriaki

皮膚科

皮膚科では、新生児・乳児から高齢者まで多岐にわたる皮膚疾患を扱い、目に見える皮膚症状からその原因と発症病態を探ります。さらには皮膚病変の裏に潜む内臓病変や膠原病、整容を目的とした幅広い疾患と患者さんを診療しています。

皮膚疾患は患者自身の目に見えるものであり、治療により軽快していくケースもあれば、慢性的に皮膚症状が続くケースもあり、医療者サイドが考えている以上に悩みを抱えていることが多いのが特徴です。当科では患者さんの症状に応じた治療法を選択し、患者さんに満足感を与える医療の提供を目標としています。日本皮膚科学会で定められた診療ガイドラインに準拠した診療を構築しております。

皮膚科常勤医2人が診療に当たっています。外来診療は月曜・火曜・金曜は午前午後、月曜・水曜・木曜は午前のみです。

外科

胃がん、大腸がん、肝がん、膵がん、胆管がん、胆石症、鼠径ヘルニア、虫垂炎などの消化器疾患、乳がん、甲状腺がんなどの乳腺・内分泌疾患、肺がん、臍胸、自然気胸などの呼吸器疾患に対し、消化器センターの消化器内科や呼吸器センターの呼吸器内科と連携する外科的治療を5人の医師によるチーム制で行っています。

特に内視鏡手術や早期がんに対する機能温存手術、胃がん・大腸がん・乳がん・肝がんなどの進行がん、再発がんの集学的治療などに力を入れています。腫瘍内科と連携して抗がん剤治療も行っています。

また、NST（Nutrition Support Team）と共同して栄養管理や胃瘻、腸瘻、中心静脈栄養カテーテルポート造設を行っています。がんの緩和ケアにも積極的に取り組んでいます。

心臓血管外科

◎週1回 外来診療実施中

患者さんと家族の気持ちに寄り添う看護を

当院看護部は、『患者さんの人権を尊重し、質の高い看護サービスの提供』を理念とし、『専門職業人としての自覚と責任を持ち、安全で安心できる看護の提供』を目指しています。当院が考える質の高い看護とは、患者さんを総合的に捉え、共に医療を提供する他職種や地域の医療機関と協働しながら、心のもった看護を安全に提供することです。そのために、一人一人の看護実践能力が向上・発揮できるよう、継続教育システムで育成を行い、専門職として常にスキルアップできるよう教育に力を入れています。現在、専門看護師1人、9分野の認定看護師12人、特定行為研修修了者2人が組織横断的に活動しながら、心のもった質の高い看護を提供するために、看護師教育に関わっています。

約300人の看護職員は、外来・病棟・手術室・透析室・健康管理センター・附属介護老人保健施設・総合支援センターで、患者さんやご家族に看護を提供させていただいています。

当院は平成16年まで看護学校を併設しており、学生を育てるのは当たり前の施設でした。現在も看護大学や看護専門学校の実習を10校受けています。後輩を育成しながら、患者さんやご家族に寄り添い、地域に必要とされる看護を提供していきたいと考えています。

看護部長 鈴木 千春

看護理念

患者さんの人権を尊重し、質の高い看護サービスを提供します。

看護方針

専門職業人として自覚と責任を持ち、安全で安心できる看護を提供します。

看護体制

- 病床数 322床
(一般312床、結核10床)
- 施設基準 急性期一般入院料1
- 看護職員数 343人
- 看護方式 受け持ち制看護
PNS看護方式
- 職務体制 2交代勤務 (一部3交代)

病棟部門

4階南病棟
(周産期医療センター)

4階北病棟
(周産期医療センター)

5階南病棟
(腎・膠原病センター)

5階北病棟

6階南病棟

7階病棟
(呼吸器センター)

6階北病棟
(消化器センター)

手術室

透析室

外来

健康管理センター
総合支援センター

各部署では、誇りと自信を持った看護を提供し、患者さんの生きる力を支えています

私たち看護師は患者さんと家族を支え、健康な生活の実現に貢献することを目指しています。各病棟では、専門性の高い知識と技術を持つ専門看護師や認定看護師が、より良い医療を提供するためのキーパーソンとして活躍しています。



質の高い看護を提供するために 看護のスペシャリストが活躍しています

それぞれの領域の認定看護師や専門看護師が組織横断的に活動し、看護スタッフを強力にサポートしています。看護実践に生かせる院内研修だけでなく、地域の医療機関で働く看護師を対象としたセミナーを定期的で開催するなど、地域全体の看護の質向上にも取り組んでいます。

●認定看護管理者 2人

患者さんや家族に質の高いサービスを提供できるよう、組織を改革・発展させる能力を有し、地域全体の医療・看護の質の向上に努めます。

●皮膚・排泄ケア認定看護師 2人

創傷ケア・ストーマケア・失禁ケアなどのスキンケアや排泄に関するアドバイスなどの専門的知識を提供します。

●感染管理認定看護師 2人

院内の全ての人を感染から守る役割があります。安全・安心な医療を提供できるよう、多職種と協働し活動しています。

●新生児集中ケア認定看護師 1人

急性期の新生児に対し、生理学的安定・神経行動学的安定を促進させるため専門的知識を提供しています。

●集中ケア認定看護師 1人

生命の危機的状態にある患者さんの病態変化をさまざまなモニタリングから予測し、早期介入を図るべくケアを提供します。

●がん性疼痛看護認定看護師 1人

がんによるさまざまな痛みを抱える患者さんの「生活に合わせた疼痛緩和ケア」を検討し、患者さん・家族の支援を行います。

●緩和ケア認定看護師 1人

がんに伴う全人的なつらさを和らげ、患者さん・家族がその人らしく心地の良い時間を過ごせるよう支援します。

●がん化学療法看護認定看護師 1人

化学療法を受ける患者さんへ療養生活の支援を行い、抗がん剤の安全な投与・取り扱い、副作用に関するケアを提供します。

●糖尿病看護認定看護師 1人

糖尿病患者さん一人一人に合った生活調整を提案し、患者さんが主体的に療養行動に取り組めるよう支援します。

●認知症看護認定看護師 2人

認知症の患者さんと家族が抱える問題を全人的に捉え、その人らしい生活が送れるよう専門的なケアを提供します。

●急性・重症患者看護専門看護師 1人

緊急度や重症度の高い患者さんに対して集中的な看護を提供し、最善の医療が提供されるよう支援しています。

●特定行為研修修了者 2人

特定行為研修とは、看護師が手順書により特定行為を行う場合に特に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るための研修です。



院内配置図



特別室

病室



個室



リハビリテーション室



生理検査室



防災センター

入院棟

7F



呼吸器センター

…呼吸器内科 呼吸器外科
眼科 糖尿病・内分泌内科

6F



消化器センター

…消化器内科 消化器外科
循環器内科 外科 HCU

5F



腎・膠原病センター

…腎臓内科 膠原病内科
内科 整形外科 泌尿器科
耳鼻咽喉科 皮膚科

4F



周産期医療センター

…産科 新生児科
／LDR (陣痛・分娩・回復) 室
MFICU NICU GCU 小児科 産婦人科

3F

手術部 (5室、うち無菌手術室1室)
リハビリテーション室

2F

検査部 生理検査室 検体検査室
細菌検査室 病理検査室
内視鏡室 ME室 中央材料室

1F

放射線診断科
放射線部 CT MRI 血管造影 X線TV室
救急診断・処置室 救急事務受付
防災センター

レストラン「菩提樹」 コンビニ キャッシュコーナー (ATM)

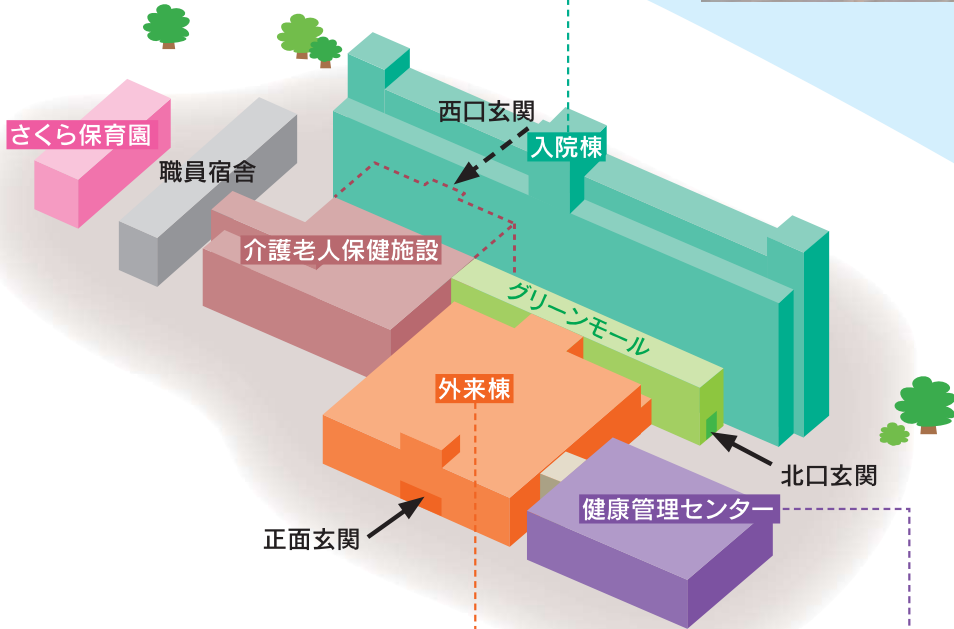
B1F

RI検査室 腎・尿管結石破碎室
中央監視室 厨房 栄養管理室
診療情報管理室



連絡通路

グリーンモール



薬剤部



健康管理センター

外来棟

連絡通路

管理部門 医局／図書室 講堂
会議室 事務部 看護部

U 外来
循環器内科 心臓血管外科 外科
腎臓内科 小児科 産婦人科
泌尿器科 耳鼻咽喉科 眼科 皮膚科
麻酔科 患者図書室・サロン

U 外来
呼吸器内科 消化器内科 膠原病内科
内科 糖尿病・内分泌内科 整形外科
中央処置室・化学療法室 薬剤部
医事課 総合支援センター
栄養相談室 相談室

連絡通路

人工透析室
健康管理センター
診断室 聴力検査室 眼底検査室 保健指導室
運動指導室

健康管理センター
事務室(受付) 身体測定 採血室 胸部撮影室
胃部撮影室 心電図室 超音波室 乳がん検査室
子宮がん検査室
禁煙外来 こどもデイサービスセンター

診療情報管理室



総合支援センター



栄養相談室



さくら保育園
(職員用院内保育園)



JCHO 北海道病院

開設 昭和61年5月

健康管理センター

疾病の早期発見、早期治療のために

☎ 011-831-2606

[予約受付]月～金 10:00～15:45 (祝日を除く)

E-mail kenkan@hokkaido.jcho.go.jp

生活習慣を共に振り返り健康を支えます

健康管理センターの主な業務は健康診断です。事務スタッフ、放射線技師、臨床検査技師、保健師・看護師、医師により、身長・体重・腹囲測定などの身体計測、視力・聴力検査、胸部X線検査、胃バリウム検査、上部消化管内視鏡検査、心電図検査、血液検査、腹部超音波検査などの検査、診察を行っています。

自覚症状がなく毎日を過ごしている方でも、実際に健康診断を受診してみると、さまざまな問題点が見つかることがあります。食生活の偏り(食べ過ぎ、塩分・糖分・脂肪分の摂り過ぎ)、肥満、喫煙などの生活習慣上の問題が長い期間続くと、高血圧症、脂質異常症、糖尿病、狭心症・心筋梗塞、脳出血・脳梗塞などの生活習慣病につながっていくことが分かっています。もちろん遺伝的要因も無視できませんが、これは自分では変えられません。生活習慣の偏りは自分では気が付きにくいものです。健康診断の結果を見て、自分の生活習慣を振り返ってみることは大きな意味を持ちます。医師・保健師・栄養士などスタッフが健康診断の結果を一緒に考え、健やかな生活に変えるためのお手伝いをいたします。



精度の高い健診

当センターでは、日帰りドックや生活習慣病予防健診、法定健診などの健康診断に加え、市内ホテルに宿泊いただき、さまざまな検査を実施する1泊2日ドックもご用意しています。

胃カメラや大腸カメラ、腹部CT検査などの他に、皆さまからの要望が高い腹部超音波や腫瘍マーカー検査などのオプション検査も多数実施しています。

JCHO 北海道病院附属介護老人保健施設

開設 平成 13 年 4 月

【施設長】 古家 乾 (JCHO 北海道病院 院長)

ジェイコー中の島 (略称)

地域住民に愛され、信頼される介護と福祉を

☎ 011-813-2222 / FAX 011-813-3833

当施設は札幌市街を貫流する豊平川河畔・中の島にあり、藻岩山を臨む地に開設されました。

生活リハビリを目的とした在宅への中間施設として、さまざまな年中行事やイベントを行い、利用者の皆さま同士や職員との交流を図りながら、楽しく心安らく生活を支援しています。

急性期病院である JCHO 北海道病院と棟続きの利点を生かし、日常的な健康管理や身体的問題への配慮、救急対応も可能です。



サービス内容

- 入所サービス
- 短期入所サービス
- 通所リハビリテーション
- 訪問リハビリテーション

札幌市委託事業

介護予防センター中の島

☎ 011-813-3311 / FAX 011-813-3833

高齢者の方々が住み慣れた地域でいつまでも暮らせるように、介護予防教室を開催、地域の介護予防活動の支援を行うなど、介護予防の拠点として、また、地域の高齢者の身近な相談窓口の機能を担っています。

サービス内容

- 介護予防教室の実施
- 地域の介護予防活動の支援
- 介護予防などの相談窓口



担当地区：中の島、平岸

病後児デイサービス事業実施施設

開設 平成 13 年 4 月

こどもデイサービスセンター

札幌市が子育てと就労の両立支援を目的として行う事業の実施施設です。

対象

- 生後 5 カ月から小学校 6 年生までのお子さん
- 病気の回復期にあり集団保育が困難であること
- 保護者が勤務の都合、傷病、事故、出産および冠婚葬祭などの理由により家庭で保育ができないこと
- かかりつけ医療機関の医師が利用について差し支えないと認めている



☎ 011-831-3300

地域と共にあるJCHO 北海道病院だからこそ 多くのことを学べます

医師の教育体制

初期研修（厚生労働大臣指定の臨床研修病院）

基幹型と協力型で身に付く基本的総合診断能力

医学部を卒業し、国家試験に合格してもすぐに臨床医として働くことはできません。2年間の初期研修を修了して初めて臨床医となります。当院では2年間、独自のプログラムで行う基幹型と北海道大学などとの共同で行う協力型（たすき掛け）を採用しています。

いずれの場合も、医師としての人格を育成し、将来の専門性にかかわらず、医学・医療の果たすべき社会的ニーズを認識しつつ、プライマリ・ケアの基本的な診断能力を身に付けられるよう教育しています。内科は専門分科していますが、6カ月以上、複数の科をローテーションし、合同カンファレンスなども行い総合的に研修します。総合診療救急科へのローテーションも義務付けており、初期治療、救急疾患、外傷などにも対応できる教育を実施しています。さらに、小児科、産婦人科、外科、麻酔科、精神科、地域医療・保健も必修でローテーションし、医師としての基本的総合診断能力を身に付けることを基本としています。希望により整形外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、放射線診断科、病理診断科も研修可能としています。

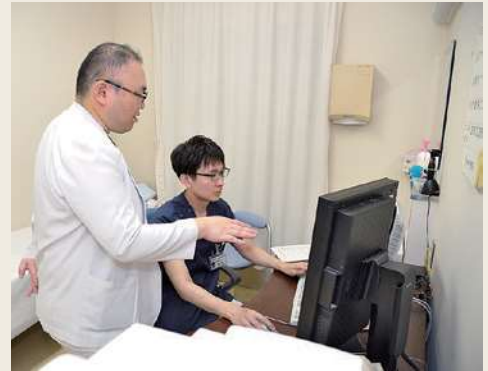
日本のグローバル化が進むにあたり、外国人を診療する機会が増えることが予想されます。当院では、このニーズに応えるため平成29年4月から外国人講師を招き、実践に役立つ医学英語講座を開講しました。

後期研修

専門医となるための臨床知識・経験を習得

初期研修を終えると、臨床医として後期研修に入りますが、平成30年4月から日本の後期研修医制度が大きく変わりました。当院内科は、独自のプログラムの内科専門医基幹施設および北海道大学などの連携施設として後期研修医を募集し育成しています。ほかの科は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学を基幹施設とした連携施設として後期研修医を受け入れます。後期研修では専門分野に一步踏み入れ、内科専門医、外科専門医、小児科専門医、産婦人科専門医、麻酔科専門医などの専門医となるための臨床経験を積んでいきます。将来大学院に進みたい方も積極的にサポートします。

また、地域医療の現場では、幅広い診療能力を持つ総合医が求められます。JCHOでは、後期研修医を修了した方（卒後6年目以降）を対象に、独自の国内外への留学を含む総合医育成プログラムの運用を開始し、地域医療に貢献できる医師の育成を行っています。



救急診察研修医教育



医学英語講座

医学部学生の病院見学

当院では医学部学生を対象に
病院見学を随時受け付けております

看護師教育



新人看護職員卒後臨床研修

JCHO 北海道病院では、地域医療における看護の質の向上や安全性の確保のため、他施設の新人看護職員を受け入れて、「新人看護職員卒後臨床研修」を実施しています。

継続研修

一人一人の看護実践能力が向上、発揮できるように継続教育システムにて育成を実施しています。また、日本看護協会、各種看護学会、研修参加を支援しています。

沿革

昭和28(1953)年	2月	「北海道社会保険中央病院」として開設 (結核病床数224床)
昭和34(1959)年	7月	一般病院 (一般病床72床、結核病床247床)に変更
昭和36(1961)年	4月	北海道社会保険高等看護学院開校
昭和48(1973)年	1月	総合病院の承認 (一般病床251床、結核病床99床)
昭和52(1977)年	4月	看護学院を 北海道社会保険看護専門学校に名称変更
昭和53(1978)年	1月	一般病床304床、結核病床46床に変更
昭和61(1986)年	5月	健康管理センター業務開始
平成13(2001)年	3月	新病棟の完成に伴い、施設名を 「北海道社会保険病院」と改称
	4月	地域周産期母子医療センター認定 こどもデイサービスセンター開設 北海道社会保険介護老人保健施設 「サンビュー中の島」(100床)開設
平成15(2003)年	4月	臨床研修病院指定
	12月	病院新築工事竣工
平成16(2004)年	3月	北海道社会保険看護専門学校閉校
	7月	入院包括医療制度DPC導入
	9月	日本医療機能評価機構認定病院 (一般病院ver4.0)
平成18(2006)年	3月	新生児特定集中治療室(NICU)3床設置
平成19(2007)年	4月	院内保育園「さくら保育園」開設
平成20(2008)年	1月	医療情報システム電子カルテ導入
	4月	特定健康診査・特定保健指導実施機関指定
	5月	新生児特定集中治療室(NICU)を6床に増床
	9月	LDR4床設置
平成21(2009)年	11月	日本医療機能評価機構認定病院更新 (一般病院ver6.0)
平成22(2010)年	4月	新生児特定集中治療室(NICU)8床許可 (一般病棟312床、結核病床46床に変更)
	7月	旧厚生年金会館中の島宿舎用地取得
	10月	職員駐車場145台新設
平成24(2012)年	11月	開放型病院の施設基準取得
平成25(2013)年	4月	北海道がん診療連携指定病院指定
	8月	地域医療支援病院の名称の承認
	9月	助産師外来開設
平成26(2014)年	4月	「独立行政法人地域医療機能推進機構 北海道病院」開設
平成27(2015)年	1月	日本医療機能評価機構認定病院更新 (一般病院2.3rdG:Ver.1.0～)
平成28(2016)年	4月	母体・胎児集中治療室(MFICU)3床設置
令和元(2019)年	4月	総合支援センター(GSC)開設
令和2(2020)年	5月	ハイケアユニット(HCU)4床設置
令和5(2023)年	8月	創立70周年記念式典開催
令和6(2024)年	3月	新生児特定集中治療室(NICU)9床へ増床 新生児治療回復室(GCU)6床許可
	4月	一般病床312床、結核病床10床に変更

学会施設認定

日本内科学会認定医制度教育関連病院
 日本呼吸器学会認定施設
 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設
 日本呼吸器外科学会専門医制度関連施設
 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
 日本がん治療認定医機構認定研修施設
 日本消化器病学会認定施設
 日本肝臓学会認定施設
 日本消化器内視鏡学会指導施設
 日本消化器外科学会消化器外科専門医制度修練施設
 日本消化管学会胃腸科指導施設
 日本気管食道科学会研修施設
 日本腎臓学会研修施設
 日本リウマチ学会教育施設
 日本糖尿病学会認定教育施設
 日本内分泌学会認定教育施設
 日本甲状腺学会認定専門医施設
 日本周産期・新生児医学会周産期専門医(母体・胎児)暫定研修施設
 日本周産期・新生児医学会周産期専門医(新生児)暫定研修施設
 日本産婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
 日本小児科学会小児科専門医研修施設
 日本外科学会外科専門医制度修練施設
 日本乳癌学会関連施設
 日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設画像認定施設
 日本整形外科学会整形外科専門医研修施設
 日本脊椎脊髄病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
 日本泌尿器科学会専門医教育施設・基幹教育施設
 日本眼科学会専門医制度研修施設
 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
 日本皮膚科学会専門医研修施設
 日本麻酔科学会認定病院
 日本ペインクリニック学会指定研修施設
 日本病理学会研修登録施設
 日本臨床細胞学会認定施設
 日本臨床細胞学会教育研修施設
 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
 日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働認定施設
 日本静脈経腸栄養学会認定NST専門療法士認定教育施設
 日本栄養療法推進協議会認定NST稼働認定施設



交通手段

●地下鉄とバス

地下鉄・南北線 「中の島駅」からバスで5分
 じょうてつバス [南65・環56] に乗車

▶ 「ジェイコー病院前停」下車

地下鉄・東豊線 「学園前駅」からバスで15分
 じょうてつバス [環56] に乗車

▶ 「ジェイコー病院前停」下車

●市電 / 「幌南小学校前停」から徒歩10分

●タクシー / 地下鉄「中の島駅」・「南平岸駅」から約2分

●駐車場 (264台)

料金：30分以内無料

5時間まで200円、以降1時間ごと100円

外来患者・面会の方は、駐車券を会計窓口にご提示ください。

※上記の割引処理をされない場合には、1時間ごと200円の料金がかかります

※割引処理は出庫前に行ってください。出庫後の割引による払い戻しはいたしかねます

独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO) 北海道病院

〒062-8618 札幌市豊平区中の島1条8丁目3番18号

電話 011-831-5151

FAX 011-821-3851

<https://hokkaido.jcho.go.jp/>

《令和6年6月発行》



JCHO 北海道病院マスコットキャラクター
とよちゃん